

令和6年2月24日

森林を守ろう！山陰ネットワーク会議
事務局 様

会員名 讃郷愛林協会
代表 田栗 栄一

「交流助成事業」活動実施報告書

1. 開催日時 令和5年12月9日 14:00～16:00
2. 会 場 鳥取看護大学・鳥取短期大学
3. 参加者 合計27人 [2団体、個人11人] 参加者名簿は受付簿を添付

団体名・個人名	参加人数	団体名・個人名	参加人数
① 讃郷愛林協会	15	⑧	
② 個人	10	⑨	
③ 佐々木 明仁（講師県職員）	1	⑩	
④ かわせみネイチャーゲームの会	1	⑪	
⑤		⑫	
⑥		⑬	
⑦		⑭	

4. 活動内容

- 講演 14:10～15:10（内容についてはレジメを添付）
- 参加者でディスカッション 15:15～15:55
- 閉会挨拶
- 松くい虫の生態と県の防除活動が分かって良かった。
又県の主催する松くい虫防除の研修会（実地活動含む）について情報を得て、1月に当協会からも8名参加することになった。

5. 交流事業の写真

会報誌「讃郷愛林協会だより」をご覧ください。

以上

令和5年12月9日

里山再生フォーラム

なぜ松くい虫は防除できないのか

主催 讃郷愛林協会

後援 「森林を守ろう！山陰ネットワーク会議」

於 鳥取看護大学・鳥取短期大学

次 第

1. 主催者挨拶：讃郷愛林協会 会長 田栗 栄一

2. 発表
 - ① 「マツ枯病のメカニズム」岡田 直紀氏（元京都大学教員）
質疑応答

 - ② 「県内の被害状況と松くい虫対策今後の方針」
質疑応答

3. ディスカッション
 - ① 松くい虫被害をこれ以上ひろげない方策はあるか？

 - ② あればボランティアに何かできる事はあるか？

4. 閉会の挨拶：讃郷愛林協会 副会長 森下 義雄

讚郷愛林協会だより



発行：讚郷愛林協会 〒682-0021 倉吉市上井333-33

当協会シンボルマーク。広葉樹や針葉樹の森に降った雨が川となり、地球の大地を豊かに潤すイメージを表現しています。



松くい虫フォーラム開催

讚郷愛林協会は12月9日、鳥取看護大・鳥取短期大で里山再生フォーラム「なぜ松くい虫は防除できないのか」を開催した！写真！！

会場には約30人が詰めかけ、住民として何ができるかを考えた。

県中部とりわけ北栄町内の激しい松枯れの現状を憂う協会のつづきを田栗栄一会長が聞き、住民と行政をつないで解決策を見出そうとする、かつてない催

しとなった。

フォーラムでは、一昨年4月に倉吉市関金町に移住した京都大学農学部元准教授、岡田直紀さん（協会員）が「松枯れのメカニズム」と題して講演し、県中部総合事務所林業振興課の佐々木明仁課長が「県内の被害状況と今後の防除方針」を紹介した。

会長あいさつ



田栗 栄一

今会報について佐伯編集長と相談したのは、ポストコロナを迎え（ゆり戻しが多少あるものの）、明日に向かって夢のあるものにしてやうということでした。しかしこうやっ

て、書き出してみると、協会のメンバー（私を含めて）の高齢化と次のリーダー育成の遅れを感じ、将来に不安を覚えるのです。何やら編集方針と真逆になりそうです。

笑門来福

そこで思いだすのは、正月明けに研修旅行で訪れた牧野富太郎植物園です。そこに展示されている富太郎のスナップ写真。その多くが呵々

として笑っています。牧野の業績は、まずは彼の才能と努力の賜物ですが、ドラマや資料を見ると、彼を支えた多くの人たち（壽衛夫人をはじめ、家族、恩師、研究者、仲間、全国に散らばる協力者や応援者）がいて完成したことが分かります。この人たちが引きつけたのは、にこやかな牧野の

笑顔であったに違いないと思うのです。笑う門に福来る。まずは笑って今年を出発しましょう！私はこの3月で71歳、75歳まで力いっぱいやって、その後はまた考えましよう。

今ちようど旧年を締めくくり新年の計画を立てる時期です。なるべく協会の活動についてご意見をお寄せいただくことをお願いして、この稿を終えます。

<紙面内容>

- 2面 会員リレーエッセー
「笑門来福の富太郎」田栗栄一
- 3面 活動記録写真
- 4、5面 会員ひろば
「会員宅訪問記」佐伯健二
「活動報告」涌嶋さゆり、深田順子
- 6面 ログガレージ建設と讚郷愛林協会⑤
田栗栄一
- 7面「今年の目標」
岡田直紀、高野信雄、森下義雄
- 8面「松くい虫フォーラムの裏話」
佐伯健二

山陰道北条道路建設予定地では伐採が予定され、薬剤散布しているのが、予定地以外では薬剤散布効果が出ている。また佐々木課長は、松林は防風林として人の生活や農作物を守るのに大きな役割を果たしているほか、大切な景観保全のために自治体や地域住民が一体となって守るべきものだと訴えた。

会員リレーエッセー

「笑門来福」の牧野

田栗栄一

私は、讚郷愛林協会の研修旅行「牧野富太郎に出会う旅」（1月6、7日、計7名参加）の企画者として、昨年7月の下見と今回とで2度高知を訪れました。

植物にうとい私の印象に残ったのは、呵々として笑う富太郎のスナップ



牧野植物園入り口で記念写真

写真です。その時代を考えると実にたくさん写真が残っていて、そのかなりの点数で富太郎は笑っているのです。

富太郎はたくさん植物

「植物を愛する富太郎」心に響いた旅

2句を残しています。「家守りし妻の恵やわが学び」「世の中のあらん限りやスエコ筐」

土佐の高知で一番大きな造酒屋の御曹司だった富太郎は、東大の助手に採用されたと言っても、研究には金に糸目をつけない性格だったでしょうから、家賃の支払いにも事欠いたのでしょうか。テレビドラマでは一つの長屋にずっと暮らしていたように描かれていますが、何度も借家を追い出されたようです。



公園内に群生する牧野博士が愛したパイカオウレン

物を、記録、分類、命名をしました。同時に多くの人を惹きつけ協力を得たものと思えます。その最大にして一番なのは壽衛夫人かと思えます。富太郎は感謝の

借金取りが来ている時は、赤旗が立っていて、その間は家には帰らなかつた話があります。昨年の下見の際、笑っているのはいつ頃かと思いましたが、今回、借金取りに追われていた時に相違ないと確信に変わりました。

2日目は富太郎の生地佐川町の牧野公園が中心でしたが、この管理人さんが親切で、鳥取から来たと言うと、事務所を閉めて案内してくれました。この方の案内する言葉が、植物に対する愛情に

満ちているのです。「学者牧野」ではなく、「植物を愛する富太郎」は、高知にそして全国に脈々とつながっていることを、こうして原稿を書いていて感じるものです。この方は帰り際に「高知に1年暮らしてみたい」との参加者の言葉に、事務所に戻り牧野公園の1年の植生を記したパンフ

牧野公園の山野草手入れ 国が表彰

パイカオウレンは、テレビドラマでは母親の好きな花と言う設定でしたが、実際には富太郎の愛した花。ところで、この項の確認のため、インターネットで、資料確認をしていたら、冒頭の情報を手にしました。

山野草の手入れをする住民グループ「牧野公園はなもりC-LOVE（クラブ）」が、国交省「手づくり郷土（ふるさと）賞」に選ばれ、6日に同町内で授与式が行われたそうです。見学に行った私達も受賞を納得して、喜ぶものです。

レットを持って来られました。感謝です。最後に、高松から足の故障を押して参加いただいた頼富信輔会員、そして私の高知時代の同僚、安部昭一さん、片岡道行さんに御礼申し上げます。おかげで道中スムーズに動いて楽しい旅行になりました。

高知県立牧野植物園

植物学者の牧野富太郎の業績を記念して1958（昭和33）年に高知市内の五台山に開園した。17・8畝の園内には3千種近い植物が栽培されている。

牧野公園

牧野富太郎の故郷、高知県高岡郡佐川町にある。1902（明治35）年に富太郎が東京からソメイヨシノの苗木を送り、それを地元有志が青源寺の土手に植えたことに始まる。日本の桜名所百選、高知を代表する花見どころ。

会員ひろば

トリタン山秋の陣（10月21日）

楽しいぞ！仲間と活動



参加者全員で記念撮影



足元が悪い中でクヌギの補植作業



あいにくの雨だったが、
楽しい昼食（上・左、）

渡辺博之さん（47歳）は、協会報「第30号」（2017年8月1日発行）の「会員リレーエッセー」に登場されました。その時のタイトル「自給自足生活を指して」が忘れられなくて、その後どうなっているのかなあ、と2月1日、田栗栄一会長と湯梨浜町園のご自宅を訪問しました。

渡辺博之 会員宅訪問

佐伯 健二

「お久しぶりです」。渡辺さんの人懐っこい笑顔は以前のまま。「さっそく鶏舎の方へ行きましょうか」。山あいへ数分車で走った谷に、渡辺さんの養鶏場があった。6棟の鶏

会員ひろば



鶏舎の前に立つ渡辺さん

舎。全部自分で建てたそう。ここには計7百羽のニワトリがいる。ポリスブラウン。オスは白く、メスは茶色。卵殻

き回したり、つついたりして遊んでいる。人の高さの2倍ほどある木のバーの上で眠ったりして、ニワトリ本来の生活行動を制限しな

を産む。鶏舎の中に入る。超えるニワトリが集まる。飼主に似たのか人懐っこい。ニワトリたちは、鶏舎の中心を自由に動き回り、地面をか

セルフビルド鶏舎に7百羽

は薄茶色（赤玉）。広いスペースで飼育され、一日平均350個の卵

い環境が、ストレスを感じさせない。この飼育方法を「平飼い」と

いう。それでも昨年の夏の猛暑には、卵を産む数が目に見えて減ったそう。

キャベツやカボチャが大好きで、近くの畑で栽培して自給自足する。当初、シイタケやハ

ストレスのない飼育環境

鶏舎の中には、もみ殻や落ち葉などが敷かれ、これがニワトリのフンと混ざって発酵し、野菜づくりの格好の肥料になる。ニワトリは、

チミツ、ジビエなどにも挑戦したが、卵生産に特化した。健康なニワトリが産んだ卵は、独特の臭みがなくて味が良く、評判は上々。



鶏舎の中を自由に動き回るニワトリ

和食料理用にも重宝され、東京に大きな販路先を持つ。湯梨浜町ふるさと納税の返礼品にもなった。



「いのちのたまご」

「いのちのたまご」という商品名で、倉吉市内の自然食品の店でも扱っている。10個入り800円。生産が間に合わない状況で、2年前に消防署勤務を辞めた。奥さんや息子さんも積極的に手伝う。

平飼いの養鶏家は徐々に増えており、中国地方で10数戸ある。渡辺さんは同地方ブロック長を務める。

渡辺さんは「当面の目標は、1日千個の卵生産」と笑顔で話す。毎日が楽しそう。



会員ひろば

涌嶋 さゆり

私は「猫じゃらし」の一人として活動しています。「猫じゃらし」

は「NR」と呼ばれる地域猫活動のボランティア団体です。「NRとは「rap（トラップ）捕獲」

「Neuter（ニュート）不妊去勢手術」

「Return（リターン）元の場所に戻す」の頭文字です。

動物愛護グループ「猫じゃらし」の活動

「Return（リターン）元の場所に戻す」の頭文字です。

不妊手術に否定的な人もいます。猫による糞尿被害、自動車に傷をつけるなど、

費用も手立てもなく、日々のエサやりで追われ悩んでいます。エサやりさんの気持ちに寄り添うことが一番大切です。

地域猫



ご近所とのトラブルに発展し孤立、心を閉ざしているケースもあります。しかし、多くのエサやりさんは、野良猫が繁殖していくが手術

手術費用は自治体の助成金を使い、希望があれば捕獲、通院、申請のお手伝いもします。野良猫の不妊手術を引き受け

「牧野富太郎に出会う旅」に参加して

深田 順子

1月6日、初めての高知駅に降り立ち、私の一番尊敬する政治家、勝海舟に入門した坂本竜馬はじめ、中岡慎太郎、武市半平太の像を仰ぎ見て、先人の思いにふとかえりました。

今回の研修旅行では、歩ける植物図鑑といわれる牧野植物園と、富太郎の生家のある佐川町の牧野公園にて、冬季の植生に出合っ

四季折々のらんまんの花々を映像で確かめ、先人の牧野氏の業績を後世に継がんとする優しい人々と、山と水の調和のとれたすばらしい世界です。

はりまや橋に誘う歌曲、「土佐の高知のはりまや橋で、坊さんかんざし買うを見た♪夜さ来い、よさこい♪」。大和撫子によく似合う花のよう。

とても書ききれない多くの収穫を得た旅でした。帰路、アンパンマン列車で、朝市で買ったゆず餡大判焼きをほおばって、感謝、感謝の旅でした。誠に皆様、有難うございました。

高知はりまや橋で（向かって右端が筆者）



ログガレージ建設と 讚郷愛林協会 ⑤

田栗 栄一

先代の会長、田栗榮太郎は山キチガイで、勧められた山を次々と買ったのですが、病を得て厚生病院に入院していた時です。そこに山を買わんかという人が現れたそうです。父は杉や桧はもういらんと断わると、いや雑木（広葉樹）だということです。

山の下側には採石をした現場跡もありました。場所は三朝町田代部落の上側で、高丸山（地元では通称双子山Ⅱふたごがせん）のふもとに当たります。私はD社が解散して帰郷後、知人の案内でこの山を見ております。採石跡地は年数を経て、それでも茅が生い茂り、松が所々に育っています。川柳もありました。川柳もありました。

最初の活動

道より下側を望むと、田代部落が川沿いの道にあるのです。多少松や柳が育っているとはいえ、大雨が降れば土砂崩れの心配があるように思われました。緑化活動ですが、防災の面で植樹の必要を感じたものです。

平成18年4月22日に総会を開催し、讚郷愛林協会の最初の活動はこの田代採石跡地の植樹活動になりました。植樹はボランティア活動でやるとして、苗木や鋏、スコップ等の道具類も必要です。ちょうど鳥取県では、森林環境保全税がスタートした（平成17年）頃でした。

私は保険会社に勤めた経験からお金を集めるからには、当然使うこともあるとみて、県中部総合事務所の林業振興課を訪ねました。

回答は、保全税は人工林の間伐費用に使うので、植樹会の費用は対象にならないという返事でした。しかし職員の方は回答の後に、分厚いファイルを取り出し、めくって、緑の募金が使えると教えてくれました。

植林の意義

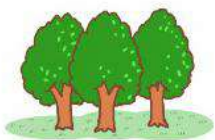
私としては成功裏に出来たと喜んでおりましたが、別な考えの方もありました。私を誘つ

ているので、今から入れるのは難しい。しかし土曜が休日になり、親が家にいない子供を預かる土曜学校でなら可能だ、と提案して貰いました。

こういふ経過で平成18年の秋に讚郷愛林協会として初めての植樹会を実施しました。準備した苗木はヤマザクラ、ホオノキ、ナナカマド、ケヤキ各百本、計4百本でした。

難しさもある

私は私有地での植樹で仮に収益が上がった場合、公に還元すればよいと考えています。その後も協会の植樹活動は、私有地に植樹していきいます。公有地にも植える機会があればとも思います。また、私有地に植える難しさもありませんが、この点は次号にまわします。



今年目標

2024（平成6）年は、正月早々能登半島地震や羽田空港日航機衝突事故といった大きな災害・事故が相次ぎ、不穏な幕開けとなりました。しかし、甲辰（きのえたつ）の今年は、昨年まで努力したことが成就する年であるとか。会員の皆さんに今年の抱負・目標を募集しました。

無駄を省く

岡田直紀



無駄飯…エネルギーを補給したら働こう。
無駄口…行動を伴わない議論は辞めよう。

無駄を厭わない

無駄な努力…確実に成功する試みなどない。
無駄足…何度でも足を運ぶ。無理が通れば道理が引く。
無駄酒…世の中に無駄な酒などない。来る酒は拒まらず、去る酒は逃さず。

地球一周の船旅

高野信雄



今年4月「ピースボート」という格安の地球一周の船旅に知人と共に参加します。

神戸港を発ち、西廻り、スエズ運河を経由し、ヨーロッパ（フィヨルド観光）などに寄港し、アラスカを経て、7月に帰国する3カ月余りの旅です。
途中、オーバークラウドツアーといって、船から離れての旅もできます。例えばエジプトのナイルクルーズ、イタリアのポンペイ遺跡、エクアドルのマチュピチュ、

ナイアガラ瀑布などを観光することも可能です。

実は私は、ピースボートは2度目です。一度船旅を経験して、その楽しさが忘れられずまた申し込みました。

船中では同好会を作って活動したり（小生の場合、囲碁同好会を企画運営）、講演会、社交ダンスなどのイベントがあり、退屈することはありませんでした。

関心のある方は船旅を考えてみられませんか。

前回2013年の旅
インディオの娘とラマと
（ペルーにて）



県立美術館の ファシリテーター

森下義雄



新しい次のことに挑戦します。

令和7年春、倉吉に開館する「鳥取県立美術館」に取館する小学生たちの美術鑑賞の手伝いができるファシリテーターを目指します。

1つの美術作品を鑑賞しながら個々の感じたことを言い合い、自分と違う他の感性にも共感する「対話型鑑賞」の案内人です。県内の小学校数は117校。児童数は2万7千人いので学芸員だけでは間に合わない

そうです。もともと子ども頃から絵や工作が好きで、通信簿の美術だけは◎でした。旅行に行くとき必ず美術工芸の館は訪問します。新婚旅行で関東の美術館を巡ったのも懐かしい思い出です。

近くに美術館が開館したら、野良仕事をした後でも気軽に美術作品が鑑賞できると思うと、今からワクワクします。

現在、本誌編集長の佐伯さんが会長を務める「とっとり県美応援団」に所属しながら、同じ志を持ってファシリテーターを目指す仲間と勉強に取り組んでいます。できるかなあと不安もありますが、後悔するよりと考え、年初にもう一度握る拳です。

